

○10番（和泉克彦君）

幸福実現党の和泉克彦でございます。

発言通告書に基づきまして、1回目の質問をいたします。

1、糸魚川市と台湾との関係について。

糸魚川市が持続可能な発展を遂げていくためには、国内外を問わず、多様な地域や人々と協力しながら、「現にある『ヒト・モノ・カネ・情報』等の経営資源を使って、それらの合計以上の成果を生み出す」ことが重要であると考えます。その中で、台湾との関係強化は当市の発展にとって大きな可能性を秘めたテーマであり、その意義を改めて見つめ直す必要があると考えております。

まず、台湾は地理的に非常に近く、飛行機で数時間の距離にあることから、経済的、文化的な交流が非常にしやすい地域です。また、歴史的にも台湾と日本は深い関わりを持っています。戦前に日本からは人材を送り込み、水力発電所、道路、港湾整備などのインフラ投資、農業や鉱工業などの産業開発、大学設立等の教育投資などを行いました。その資産は今でも使われており、日本を尊敬する台湾人も少なくありません。このような背景から、台湾は非常に親日的であることでも知られ、多くの台湾人が日本文化に親しみを持っています。

さらに、防災分野における台湾との協力にも注目すべきです。台湾は日本と同様に、地震や台風などの自然災害が頻発する地域であり、災害対策の経験や技術を共有することで、双方の防災力を向上させることができると考えております。特に、本年4月3日に発生した台湾花蓮地震では、避難所などでの迅速な災害対応が日本でも話題となりました。台湾との交流を通して、こうした災害対応のノウハウも高めていくことができます。また、この地震の際は、日本から緊急支援チームも派遣されましたが、一方で、本年1月の能登半島地震でも台湾から支援チームが駆けつけました。こうした日本と台湾で互いに助け合う伝統は、東日本大震災や1999年の台湾中部大地震から続くものですが、地方都市レベルで交流を強化することで、こうした伝統をより深化・発展させていくことができるのではないのでしょうか。

そこで、以下、伺います。

(1) 「台湾有事」の際の当市としての対応について。

- ① 当市の市民で、台湾や中国に観光や仕事等の目的で、訪問ないし定住する方の人数を把握していますでしょうか、伺います。
- ② 台湾有事の際、当市や市民にどのような影響が出るとお考えでしょうか、またそれに対して、どのような対策が考えられるでしょうか、伺います。
- ③ 「ウクライナ戦争」などを分析すると、台湾有事の際に、大規模なサイバー攻撃が行われることが予想されます。有事の際は、その地域から遠隔である日本であっても、通信システムなどに支障を来すことがあると言われております。そこで、当市としても対応を検討すべきではないかと思われませんが、いかがでしょうか。特に、重要なインフラ（電力、水道、通信など）が攻撃された場合の対策計画を策定していますでしょうか、伺います。
- ④ 台湾有事の際には、当市として沖縄等の南西諸島の住民や台湾からの避難の受け入れを検討すべきと考えますがいかがでしょうか、伺います。
- ⑤ 全国の自治体の中には災害に関して企業等の事業継続計画（BCP）策定の支援を行っているところがありますが、当市において災害に加えて国際的な地政学的リスクにも対応

したBCPの策定を支援し、地元企業を守る取組を行うのはいかがでしょうか、伺います。

(2) 当市と台湾との関係強化の重要性について。

- ① 米田市長は台湾をどのように位置づけ、当市との関係の重要性をどのように捉えておられるでしょうか、伺います。
- ② 現在、当市と台湾とは、ジオパークでのつながりがありますが、これ以外での観光・文化・スポーツ・教育など、どのような分野で台湾との関係強化が可能とお考えでしょうか、伺います。
- ③ 台湾は日本の重要な経済パートナーであり、多くの自治体でも工場誘致や観光振興等の経済協力を行っています。当市として台湾との経済交流をどのようにお考えでしょうか、伺います。
- ④ 当市と台湾の都市との姉妹・友好交流都市協定を結ぶなどの連携について、米田市長のお考えを伺います。

2、糸魚川市における地域公共交通の現状と課題について。

今年3月の北陸新幹線敦賀延伸や、えちごトキめき鉄道で大関・大の里関らのラッピング列車が走ったり、JR大糸線に観光リゾート列車雪月花が乗り入れたりなどと、話題が豊富な1年となっていますが、これらを含めた地域公共交通が糸魚川市にもたらす影響について、以下、伺います。

- (1) 北陸新幹線敦賀延伸に伴う当市への波及効果についてどのように分析されているのか、伺います。
- (2) 大糸線増便バスの途中経過と今後について伺います。
- (3) 観光リゾート列車雪月花の大糸線乗り入れの効果と大糸線の将来展望について伺います。
- (4) 今年の8月1日～10月12日まで行われた電動キックボードやレンタサイクルの社会実証の結果と今後について伺います。
- (5) 先般示されました令和7年度からの「糸魚川市地域公共交通計画（マスタープラン）」案について、以下、伺います。
 - ① この計画の計画期間が、令和7年度から令和16年度までの10年間とされています。交通システム等は日進月歩で変化するものですが、この計画期間に起こり得るであろう事象に柔軟に対応できるとお考えでしょうか、伺います。
 - ② 計画にある「目指す将来の交通網イメージ」として、路線バス以外のエリア、特に、中山間地域における共助による移動手段の確保とありますが、現状の運転者不足やさらなる高齢化で、中山間地域における「共助」が成り立つものなのか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

和泉議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、把握いたしておりません。

2つ目につきましては、渡航制限や退避勧告などが想定されます。

3つ目につきましては、国民保護計画において対象となる事態に該当しませんが、国や県から情報提供をいただく中で対応してまいります。

4つ目につきましては、国や県で検討するものと捉えております。

5つ目につきましては、現時点では、考えておりません。

2点目の1つ目につきましては、ジオパーク活動を通じた地域間交流の大切なパートナーとしての位置づけをいたしております。

2つ目につきましては、今年6月、台湾ジオパークネットワークと締結したフレンドシップ協定において、教育、防災、国際交流など、包括的な連携を進めることといたしております。

また、北アルプス日本海広域観光連携会議などによる、台湾旅行社へのトップセールスや現地商談会に参加し、サイクリングなど、アクティビティや食材、ヒスイ等をPRするなど、誘客促進を図っております。

3つ目と4つ目につきましては、経済や観光面のほか、新たな展開を図るため、台湾との友好都市の在り方を検討し、ジオパークによる交流を生かした取組につなげていきたいと考えております。

2点目の1つ目につきましては、市が行っている新幹線の乗降調査の結果から、対前年比2%の増となっており、観光客の増加や大糸線の利用者の増加につながっているものと捉えております。

2点目につきましては、6月から10月までの利用者は、9,410人であり、12月から白馬八方バスターミナルを経由するなど、ウインターシーズンの利用促進に向けて、取り組んでおります。

3点目につきましては、今年も11月10日に実施し、沿線住民の皆様から駅でおもてなしをいただくなど、大糸線の魅力発信につながっているものと捉えております。

引き続き、沿線自治体及び関係者と一体となって、大糸線の利用促進を図ってまいります。

4点目につきましては、実証実験期間中に電動キックボード27人、レンタサイクル12人の方からご利用いただき、現在、移動経路などを分析中であり、その結果を基に、今後の二次交通等の対策に生かしてまいります。

5点目の1つ目につきましては、マスタープランは公共交通に係る取組の方向性を示す計画であり、新たな技術や手法については、公共交通協議会において検討してまいります。

2つ目につきましては、共助を含む地域の実情を踏まえた、よりよい交通手段について、住民の皆様と協議する中で検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

すいません、ちょっと、明確に聞こえなかったということで、もう一度、説明させていただきませんが、2番目の2点目の6月から10月までの利用者は9,410人です。申し訳ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

それでは、1番目の台湾との関係の再質問をいたします。

台湾有事については、外交、殊に国防関連の質問ということですので、地方議会にはあまりなじまないのかなという、そういう感じもしますけれども、冒頭で、防災分野でのことも取り上げておりますので、1点、防災分野についての質問をさせていただきます。

静岡県は、ご存じのとおり、防災先進県とも言われておりまして、台湾の6つある行政院直轄市、台北市などの大都市全てと防災協定を結んでいます。連絡窓口の設置とか、平時の業務提携とか、災害時の総合サポート及び被災後の復興再建の支援を協力するという、そういう方針があります。

横浜市も、台北市と防災協定を結んでおりますが、大規模災害は、被害が広域に及ぶために、市町村単位だけではなくて都道府県レベルでの連携強化も重要だと私自身、考えております。

また、当市単独では難しい場合は、新潟県レベルで防災分野で協力していくことで、台湾の防災のノウハウを学ぶことができる機会にもなるというふうに考えています。

そこで、県に対して、台湾との防災分野での連携強化を働きかけていくのは、いかがでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

防災分野でということ、お答えさせていただきます。

まず、台湾の防災への取組については、非常に見習うところが多いかというふうに捉えております。

また、発災時における県の役割もあることから、市からの積極的な働きかけということは現在のところは考えておりませんが、台湾など、海外とかそういった防災に関する連携強化の取組の話をする機会があれば、確認してみたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

今答弁いただきましたが、やはり市単独では難しい部分は、新潟県にも働きかけてということで、まず、糸魚川市が率先垂範というか、音頭を取って、そういう防災分野での勉強会といいますか、学びの機会を増やして、実際に、災害が起こるのは困りますけれども、いざというときのためのそういうノウハウ等を身につけていただければと、それに向けて検討いただきたいというふうに思い

ます。

続いて、(2)の台湾の関係強化についてです。

市長の答弁には、台湾は大切なパートナーという答弁をいただきました。

そこで、昨今、コロナ禍の影響が徐々に薄れる感がある中で、本市においても外国人の姿を目にすることが増えてきてます。現在、本市での観光案内としては、外国人向けにはどこの国や地域からの旅行者を想定しているのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

先ほどの市長答弁のとおり、台湾をメインターゲットとさせていただいております。そのほか考えられるものにつきましては、やはり白馬バレーにスキーなどウインタースポーツで長期滞在されておられますオーストラリア人とか、また、姉妹ジオパークで交流のあります香港からの旅行者も想定範囲になるかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

台湾をターゲットということですが、台湾では、ご存じのとおり中国語を使用しています。中国語も、同じ中国語であっても繁体字とあって、我々が日常使ってる漢字に似たようなあまり崩していないようなものと、簡略化している簡体字というのがありますが、台湾の方は、どうも簡体字は読まないそうで、繁体字のほうを専ら読むようですね。もし同じ中国語だということ、本市において簡体字のみに対応している状況であれば、改善が必要かと思いますが、これについていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

今現在、本市で中国語対応につきましては、基本的には繁体字、簡体字、両方のほうで作成はさせてはいただいております。

ただし、やはり総合的な観光案内のみとなってしまうので、今後は随時、更新時などには、小さなものも改善に努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

両方対応されているということが分かりましたが、実際に、よく私も台湾の方が市振とかに来られるので、やはりそういう情報発信だけではなくて市内のポイントですかね、そういうところに、やはりそういう台湾人の方向けの表示等が必要になってくるのではないかなというふうに思いますので、ご対応をお願いしたいと思います。

次に、台湾の都市との姉妹友好交流協定を結んでいる各自治体の事例を挙げて、幾つか質問させていただきます。

まず、静岡県浜松市ですが、浜松市は友好交流協定を結ぶ台北市と、それぞれの市から訪れた観光客に記念品を贈り合う取組を行っているということです。浜松市民は、台北市のトートバッグやウサギ型の貯金箱、ポストカードがもらえ、浜松市を訪れた台北市民は、トートバッグや遠州綿つむぎの袋にあめを入れた静岡巾着あめ、あるいは市のマスコットキャラクターを描いたピンバッジがもらえるということです。

このような事例がありますけれども、こうした取組を参考にして、当市と台湾との交流を深めていくのはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

私もアジア人ですので、記念品をやはり送り合うということは、お互いを知る上で、相互にやはり効果があるのではないかなというふうに思っております。

昨年4月に台湾ジオパーク関係者が来日いただいたときには、交流のあかしとして、記念盾のほうの贈呈もさせていただきましたし、また缶バッジ、またクリアファイル等、ジオパークグッズの進呈のほうもさせていただいております。また、来日するたびに郷土料理や、また地酒を楽しめますジオの恵みフェスタを開催するなど、交流のほうも深めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

今ほどの答弁から、ジオパーク関連での取組があるということで理解させていただきました。

次に、今年の6月ですが、北海道の沼田町が、台湾東部の花蓮県瑞穗郷と友好交流協定を締結しています。きっかけは、昨年台北駐日経済文化代表処、札幌分処の粘信士分処長が、この沼田町の、夜に高いと書くんですか、夜高あんどん祭りというのがあるんですけど、それを訪れたのがきっかけだったそうです。加えて、豊かな自然、伝統芸能、アウトドア資源といった共通点があり、実現したとのこと。

当市も、けんか祭りとか、竹のからかいなどの伝統的な行事があつて、このような地域の祭りを活用して、台湾側に働きかけて、友好交流協定を締結していくのはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

過去に台湾東部、台南のほうになるんでしょうか、台東市から声をかけていただいたことがございます。そのときには、まだ我々もジオパークをやっておりませんで、そういった台湾との交流もしてなかったもんですから、やはり少し大きな都市という形の中で少し釣合いが取れないのではないかなというような考えで、こちらからはお伺いさせていただきましたが、糸魚川のイベントにはお呼びかけしなかった経過がございます。

また、今現在は、台湾の各ジオパークと交流がございます。全体的な交流でございまして、当市との交流は、まだ図れない状態でございますが、しかし、やはり台湾大学を介しての交流でございまして、非常に信頼性が高く、非常に糸魚川に対しての思いを持っておられる方々も結構おられるわけでございますので、そういったことを考えたときに、やはりどこかの都市と結ぶというのも大きな事柄になろうかと思っておりますので、どこと連携すればいいのか、そして、我々糸魚川に対して、多くの方々がおいでいただくことを進めていくことが大切なことと思っておりますので、我々と共通の活動を介して進めていくという形に、何か、やっぱりつながっていくことが一番大事かと思っておりますので、そんな感覚を今思っている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

ありがとうございます。やはり台湾の方というのは、私も冒頭に申しましたが、非常に親日的な方が多くて、私も市振駅で歓迎したときは、「Welcome to Ichiburi thank you」という英語で書いたものと、「ようこそ市振へ ありがとう」という2つ、納豆パックの蓋を細工して置いておいたら、残ったのは英語のほうで、日本語の平仮名のほうをほとんど持っていかれたという、そういうのがあって、やはり日本の文化に触れたいというような、そういう方がたくさんいますので、台湾からの観光客の方の意向とかニーズをさらに調査研究させていただいて、できればそういう友好関係を築いていくためへの一助にさせていただければというふうに思います。

そのほかには、先月11月に熊本県の菊池市が、台湾の台南市東区と友好交流計画を結びました。そこと双方の特産品のマーケティング推進などでの連携を推し進めているとのこと。こういうマーケティングというか、そういう特産品について、このような事例を参考に台湾との交流を深めていくのは、いかがでしょうか。特に地元の特産品等を台湾市場に向けてプロモーションするなど、具体的な計画等はおありでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

台湾市場に向けて、当市の特産品プロモーションについては、現時点では、市としては取り組む計画はございません。

しかし、市内業者が台湾等海外へセールスやマーケティングを行う場合は、今現在持っております事業が、展示会等支援事業というものがございます。そういったものもご紹介しながら、引き続き企業に対しては支援をしてみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

今のところは計画はないということですが、そういう支援事業がありますので、何から何まで行政がお抱えということでは僕はないと思いますから、そういうような事業を通して、市内事業者への支援をしながら、民間の活力を生かして、交流が図ればというふうに考えます。

次に、鹿児島県の阿久根市ですが、ここは台湾の台南市善化区というところと友好交流協定を結んでます。それを受けまして、互いに生徒を受け入れて、交流を深めているということです。今年は、市内の中学・高校生7人を派遣して、11月の12日から15日の3泊4日という、そういう日程でホームステイをしながら現地の高校生と交流したとのこと。当市においても、中学生の交換事業ありますけれども、こうした事例を参考に当市の子供たちの国際交流をさらに盛んにしていくのはいかがでしょうか。教育長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

今ほど和泉議員のほうからご提案をいただきました。中高生の海外派遣、ホームステイも含めてというふうな事例を紹介していただいたんですけども、当市の場合については、香港ジオパークとの姉妹提携の関係で、今年が10回目でした。市内の中学生26人が、4泊5日の日程をこなして帰ってきて、その報告会を聞いてますというと、やはり相当なインパクトを受けたということで、糸魚川市のジオパーク学習と香港ジオパークの特色の違いとか、スケールの違いとか、それから、関わる中で、やっぱり異文化に触れるというような部分のところ、食とか町並みとか、その雰囲気全体が、やっぱり子供たちに与えたインパクトは相当強いというふうなことを考えますというと、やっぱり直接体験をしながら海外に出かけていくというふうな部分のところにとっては、子供たちの成長段階にとっては大変大事な取組になるかなというふうに思ってます。実践的に、実際に体験してみてというような部分のところを重き置いたときに、グローバル人材の育成という観点からすると、やっぱり大事なかなというふうに思ってます。いかんせん、行政がどこまでやるのかということとか、民間の力を利用しながらどのような形でもって実践できるのかとか、あるいは中学生と高校生なのか、あるいは高校生だけなのかとか、いろんな取組の方法があろうかと思ってます。今までの実績を踏まえながら、これからの糸魚川市の海外派遣という、そして直接体験するというふうな教育の場をどのようにつくり上げていくかというふうな部分についての貴重な参考の資料とさせていただきたいというふうに思ってます。ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えさせていただきます。

補足的な事柄であると思っておりますが、本当に台湾は、非常に日本にとって、非常に親日的な感覚を持った方々が多くおられまして、3.11の東日本大震災のときに、どこへ支援物資を送ったらいいかわからないということで、糸魚川を介して送ったという経過もございます。糸魚川へ送ってきたということもございますので、非常にそういった意味では、私は非常に親日家の多い台湾でございますので、やはり締結を結ぶということに対しては、非常にいい国だと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

ありがとうございます。台湾関係のことについてまとめるという形でちょっと提言させていただきますけど、近年、やはり台湾からの観光客が非常に増えているということです。令和6年度版の観光白書においても、2023年の台湾からの訪日外国人旅行者数は420万人で、全体の16.8%を占めているそうです。これは最も多い韓国に次ぐ2番目ということです。

また、訪日外国人の旅行消費額を見てみると、台湾は2023年だと7,835億円、全体の15%を占めているということです。外国人観光客といいますと、中国の爆買いのイメージが強いんですけども、何と今や台湾人の方のほうが、中国人観光客を上回る消費活動を行ってくださるというデータがあります。

台湾人観光客は、今答弁や質問のやり取りの中にもありましたけど、やはり糸魚川市というか、そういう地方都市への関心が非常に高く、日本の地方の文化とか自然とか、美食を楽しむ傾向があるということで、観光庁の令和5年宿泊旅行統計調査報告によると、都道府県別の延べ宿泊者数について、外国人宿泊者のうち台湾人宿泊者が首位、もしくは2位というところの自治体が36にも及ぶそうです。ですから、糸魚川市においても、自然の景観とか、歴史的資産、特産品といった観光資源を活用して、台湾からの観光客を誘致することで地域経済に大きな波及効果が見込まれるのではないかというふうに考えます。特に近年では、個人旅行とか小規模グループ旅行の需要が高まっていますので、これに対して、対応した観光プランの開発も求められるのかなというふうに思います。

また、文化交流についても、台湾との連携は多くの可能性を秘めていて、例えば台湾では、日本のアニメや音楽、伝統文化に対する関心が非常に高く、これを生かしたイベントや交流プログラムを実施することで、双方の文化的理解が深まることも期待されます。

また、教育分野では、自由と民主主義の価値観を共有する学生同士、子供たちの交流や語学学習プログラムを通じて、若い世代が国際的な視野を養う機会を提供することができますし、これによって地域の若者が、世界を舞台に活躍できる人材へと成長するきっかけをつくることができると考えます。

以上のように、一般質問の冒頭にも申し上げましたとおり、台湾との関係強化は、当市の発展にとって大きな可能性を秘めたテーマであります。あらゆる視点から、その意義を改めて見詰め直す必要があるというふうに考えております。

ここで最後、教育長にも最初、交換事業のことをお話しいただきましたが、また、教育全般についての交流について、そして、井川副市長と最後にまた米田市長にも、お考えを伺いたいと思いません。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

今ほど和泉議員のほうから教育分野における台湾との交流、子供たちとの直接の交流みたいなものの意義をはっきりと提言いただきました。私もその提言の内容については、非常に大賛成だなというふうなことを思ってます。

先ほども少しお話しさせてもらいましたけども、教育分野から言いますというと、先ほどと重なるんですけども、やっぱり子供たちの成長段階において、異文化に直接触れながら、やっぱり交流を通して言語の力を高める。そして、直接的な部分のところを通して感動した部分、あるいはショックを受けた部分、その部分のところは次への成長に必ず生きてくるというふうな体験になりますので、大変有効な機会になるかなというふうに思ってます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

私、観光誘客という立場からちょっとお答えをさせていただきます。

私が注目しているのは、えちごトキめき鉄道で運行している雪月花でございます。雪月花につきましては、えちごトキめき鉄道から資料を頂いてるんですけども、全乗降客のうちの約4分の1が外国から訪れた方というふうになっています。そのうちの約8割が台湾から来られた方ということで、令和5年度の統計から申し上げますと、約1,800人の方が糸魚川駅で乗降されているという形になります。雪月花は1乗車当たり2万5,000円から3万円ぐらいと決して安くない料金なんですけども、多くの台湾の方から来ていただいている。そういった方が市内のほうに観光ですとか滞在にしっかり出ていられるかというのが、ちょっとしっかりまだ把握できてない部分ではございますが、ぜひ糸魚川にお越しいただいた台湾の方に、市内を巡っていただきたい。また、こういったパイプがあるものですから、台湾から、また多くの方が雪月花を利用しに来ていただくように、えちごトキめき鉄道、それから関係機関と連携して、対応してまいりたいと思いません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

何度も申し上げているとおり、台湾とは非常に親日的な国でございますので、私といたしまして何度も糸魚川へおいでいただいておりますので、その人たちにとっても、本当に糸魚川は非常に好きだということをよく言っていただけます。また、そして日本の文化に対しても非常に愛着を持っておられて、文化といっても非常に、千 昌夫の「星影のワルツ」でみんなと一緒に、抱き合ったりしてハグしながら、別れたときもございます。そのように捉えますと、やはりほかの国と違って非常に友好的な連携を取れる国だと思っております。

ただ、やはりもう一つ決めなくちゃいけないのは、やはり今、全体にジオパークの関係者と交流してるわけですが、やはり一つの都市と結んで、しっかりとしたそういった地盤を築いていくことが大切かなと思ってるわけでございますので、その辺、台湾大学の大学の教授を介して、その辺を絞り込んでいくことも大切な一つの方向性かなという、今ご質問の中で捉えた次第でございますので、そんな友好都市ができればいいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

ありがとうございます。それぞれにやはり台湾とのつながりが必ずありますので、それを端緒に、さらにつながりを強めていただければというふうに思います。

次に、2の当市の地域公共交通について、再質問いたします。

まず、北陸新幹線についてですけれども、主に関西圏とか中京圏からの誘客を中心に考えられていると思うんですけども、糸魚川までおいでいただくためには、ご存じのとおり敦賀駅での乗換えが必須で、それに加えて、時間帯によっては金沢駅か富山駅で乗換えを強いられる新幹線ダイヤの現状があります。そのダイヤを何とか柔軟に変更していくことで、さらなる誘客増加につながるというふうに私は考えているんですけども、それについて、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、当市まで直通の本数というのは、15本中、5本ということで、乗換えが7本という形になっております。これ、なかなかダイヤの改正という部分を1市だけでJR西日本に訴えかけても、なかなか難しい部分がございますので、これについては新潟県と連携しながら、要望をJR西日本に対して出しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

要望していただいているということですが、以前、建設産業常任委員会でも、富山まで来ている、つるぎを延伸するというような、そういう要望の内容もちょっとお聞きしたか、そういう記憶があるんですけど、これについての運用は、やっぱり何かちょっと鉄道ファンぽくなって申し訳ないですが、糸魚川駅での折り返しというのは厳しいと思います。ということになると、お隣の上越妙高駅か、やはり今通常、長野で、乗務員が交代している長野駅かということになります。そうすると、やはりJRの会社は西と東の両社またがることになりますから、結構また、ハードルが高くなると思うんですよね。ですから、どっちも多分、現行のダイヤを変更するというのも結構厳しいかとは思いますが、やはり糸魚川への誘客を考えたときに、せっかくある新幹線ですから、それを使わない手はないと思いますので、粘り強く要望をお願いしたいと思います。

続いて、大糸線の増便バスですけれども、目標指数の3万人までにはなかなか届いていませんが、これから冬ですね、ウインターシーズンへの期待がやっぱりあります。それも含めて、これまで利用された方々から生の声を生かしていくことが必要かと思われましても、それについてはいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

増便バス、新聞報道にもありましたとおり3万人ということで、なかなか目標までにはちょっと厳しい状況ではあるんですけども、今年度、初年度ということもございまして、周知に努めてきたところがございます。地元の方からの団体、地域の方ですね、増便バスを使っていただいて、白馬方面に行っていただいたりといったところの動きも見れてきておりますので、こういったところを生かしながら進めていきたいというふうに考えております。

ご質問のアンケートの件でございますけれども、毎月4日間ほど平日、それから週末ともに4日間ですけれども、乗降調査を行っております。この際にアンケートを取ってございまして、これらを分析する中で、お客様のニーズに合った運行というものを検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

ウインターシーズン、これからになると思うんですけど、やはりここでもインバウンドへの対応というのが必要になってくるかと思えます。先ほど台湾の交流についても、台湾の方が中国語を使うけど繁体字のほうがというような、そういうことをお話ししましたがけれども、私も増便バス乗ったときに、僕入れて30人乗客がいましたけど、僕以外はほとんど外国人で、運転士さんは一人一人、英語とか外国語を使って対応してるんですよね。そのために出発時間が10分以上遅れたというような、そういうことがあります。

そういうことを思って、ちょっと糸魚川駅前に行ったら、やっぱり外国人向けの表示が、一応コンパクトにまとめられてる表示がされて、以前よりは改まってるなというような印象を持ちました。やはりこのインバウンド対応について、特にスキー場へ向かうルートを変更してるということですから、そういうスキー場へのアクセスなどの対応について、具体的な方策があれば、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えします。

議員おっしゃるとおり、インバウンドへの対応というのが、今年、初年度ということもあって、実際、運転士さんに大分ご迷惑をおかけしたというところの事例が挙がってきております。

そういったことを踏まえまして、冬のダイヤにつきましては、英語、それから簡体字になろうかと思えますけれども、そういった対応はさせていただいております。さらにバスの中の三角運賃表、これについても英語対応になるようにさせていただいております。できるだけ運転士さんの負担軽減ということもございますので、そういったインバウンドの対応について、していきたいというふうに考えております。

さらに今回、冬ルート、冬ダイヤということで運行させていただいておりますけれども、市長答弁にもありました、八方バスセンターに接続するという形での運行をしております。これは、白馬バレーの取組ではございますけれども、八方バスセンターから各スキー場へのシャトルバスというのが運行されております。これが15分から20分間隔で運行されているといったことで、この増便バスを使って、八方バスセンターから各スキー場へのアクセスといったところも確保されておりますので、こういった点を周知をしていきたいというふうに考えております。さらに白馬の職員なんかに聞きますと、12月から3月の中旬まで宿泊はいっぱいだというところをお聞きしております。そういった中で、夕食難民が発生しているといったところもお聞きしております。ぜひこの夕食を、ぜひ糸魚川のほうに来ていただきたいといった取組の中で、観光協会とも連携しまして、大体、外国の方々はお店に対して予約をしてからおいでになられます。こういった部分の英語対応について、予約の代替をできるような体制を今構築をして、そういった体制があるということも含めて、白馬のオーナーさんたちに営業を行っております。非常に好評だということをお聞きしておりますので、本格的なウインターシーズンの中で、こういった機能によって、増便バスを使って夕食に来ていただく外国人の方が増えていただくことを期待しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

取組を聞かせていただきまして、私もやはり糸魚川が、ただ、一通過点ということであってはならないと思いますので、糸魚川でお金を落とすといかれる方策というか、今幾つかお聞きしましたので、ぜひ進めていただきたいというふうに思います。

続いて、大糸線についてですけれども、やはり大糸線の存続については、各議員の皆様も一般質問等で話をされてますけれども、私もやはり沿線住民の方々への働きかけがやっぱり大切だというふうに思ってます。全国各地での鉄道の存続に向けた取組の新聞記事等を見ますと、例えば災害等でそこから復旧した路線などは、まずは地元の住民の皆様の熱意があってこそであるというのが、やはり活字、そういう活字が躍るんですよね。ですから、いかに糸魚川市民の皆さんを巻き込んでいくかが課題だというふうに私は思いますけれども、これについていかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

先月の雪月花の乗り入れの際にも、根知駅で地元の方からおもてなしをしていただいたりといったことで、地域の方々からの熱意を示すということが非常に重要だというふうに考えております。この辺は、課題だということも認識しておりますので、今、大糸線の取組について利用促進という形で、沿線自治体と一体となって進めておりますけれども、糸魚川だけではなくて、白馬、それから、その先の大町、松本までも含めて、こういった地域の住民の方々を取組をどういうふうに巻き込んでいくかといったところが課題だというふうには考えております。一体となって行政の取組、利用促進の取組もそうですし、地域の地元の皆さんの熱意みたいところを示していくことも重要だと思っておりますので、両面から取組を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

1月10日の雪月花の大糸線の乗り入れについては、単純に糸魚川駅から大糸線に入ったわけじゃなくて、ご存じのとおり、何で市振まで来るのかなというのがあります。

ただ、ここもう三、四年ぐらいになりますけれども、年々やっぱり市振駅での歓迎される方の人数が増えてきているというのが実感です。子供たちも、市振は少ないですけどもやっぱりお出迎え、お手振りをしに来てくださる方がやっぱり増えてきてますので、そういう自主的にというか、そういうような活動もやっぱり大切なのかなというふうに思います。やはり強制はできませんけれども、例えば大糸線応援隊が、もう大分増えてると思いますが、4,000人ぐらいになってるんでしょうかね。そういう方たちにこれまで以上の情報発信に取り組んでいただくとか、お手振りって、えちごトキめき鉄道とかが通るときに手を振るだけなんですけど、そういうようなことで乗客の方とのコミュニケーションを図れますよなんていうようなPR、そういう啓発が必要だというふうに思います。

やはり残念なことではありますけど、全国にある鉄道が途絶えてしまった地域というのは、どうしても衰退の一途をたどるといって、そういう憂き目を見る事例があります。やはり一旦敷かれた鉄道ですから、何とかしてやっぱり地元、あるいはその沿線での関係機関とか団体とか、沿線住民、鉄道ファンの力を結集して、何としても存続に向けて取り組んでいく必要があるんじゃないかと。

これはもう何回もこういう言葉というのは異口同音に出ていますから、分かってるよということではあるんですが、何せ本当に赤字のことしか言わないので、ただ赤字ですって言われても、何が赤字なのかという、そういう中身まではJRは示してくれてませんので、そういうところもやっぱりちょっとできれば明らかにして、JRさんとしてはどこを削減していけば赤字を減らすことができるのかということにも踏み込むことができるので、新たに赤字というふうにして地元民は言われても、ただ困る一方で、そういうことも考えの中に入れていただきたいというふうに思います。

次に、二次交通ですが、電動キックボードとレンタサイクルについてですけども、市内の各駅から各場所への移動について、観光振興のために市内の二次交通の充実が重要な課題だというふうに思います。市内に観光で訪れる方々の二次交通に関する意識調査等が必要かと思われませんが、調査等は行っておられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

これは観光施設、観光サイドのほうの調査ということになりますけども、その観光施設においていられるまでに、どういった交通手段でおいでになりましたかといったような調査は毎年行っております。当市の観光施設までのアクセス、要は二次交通の部分ですね、それは課題であるというふうに認識しているところでございます。

今回、実証実験によって、件数は少なかったんですけども、その方がGPSでどういう経路、どういうルートで、どういったところに行かれてるのかといったところのデータを取れるような形になっております。現在それを分析して、どこにどういうニーズがあるのか、観光客の方々が、どういうものを求めているのかといった参考のデータになろうかと思っておりますので、そういったものを生かしながら、今後の二次交通を考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

調査で、やはり生の声ということになるんですけど、私はやっぱりちょっと個人的なことになってあれですが、週末はやはり市振駅に行くことがあって、市振駅においてになった方々からは、異口同音に、市振駅からの移動手段、二次交通のことを要望として聞くことが、ままあります。近くに道の駅があったりとか、市振の集落には、やはり文化遺産とか歴史的な史跡等もありますから、そこ回ってみたいんだとか、あるいは親不知まで行くにはとかですね。国道8号が危ないので、狭いので、自転車で行くのはちょっと危険性を伴うので、えちごトキめき鉄道さんのほうで、サイクルトレインという形で、自転車をそのまま乗せられるシステムありますけども、実際に親不知の難所といいますか、そういう断崖絶壁のところを見たいというような声もやはりお聞きします。ほんのごく片隅のところのことなんですけど、やはり糸魚川を訪れて、糸魚川の魅力を感じてくださる方には違いないので、ぜひそういう方のお声をやはり聞いていただいて、移動手段をご検討い

ただければというふうに思います。

最後に、地域公共交通についてですけども、答弁でも共助についてのお考えが示されましたが、その計画にある、目指す将来の交通網イメージの共助がやはり課題になってくると思います。そこで、やはりその共助が、今後10年間の計画の中で、アクションプランも含めて、共助は成り立つのかなというような、そういう疑問がやっぱり浮かぶんですけども、そのこのところをもう一度、お聞かせいただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

糸魚川市地域公共交通計画、マスタープランですね、現在、今策定中でございます。これは、このマスタープラン、今の課題であるとか現状ですね、こういったことを知ってもらうための計画でもあるというふうに認識しております。

先ほど議員おっしゃられた共助が成り立つのかといったところについても、それぞれの地域、谷筋によって、違うものがございます。私ども公共交通に置かれる今の現状をマスタープランという形でまとめて、それを持って地域に入りたいというふうに考えております。地域の中でどういう交通の在り方が、移動の在り方がいいのかということ、地域の方々と一緒に話し合いをしながら、その地域に合った移動の方法を選択をしていくといったことを来年度以降やりたいというふうに考えておりますので、それを持って、アクションプランという形でまとめて取り組んでいく。これ、いつまで続けられるとか、時によって状況が変わってきます。技術も進歩するというのもございますので、そういった段階では、また地域の方とお話をしながら見直していくということも必要かというふうに考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。

○10番（和泉克彦君）

これまでも地元住民の声をお聞きしてきたかと思いますが、やはりそれ以上にしっかり入って、実情を把握されて、マスタープランがより充実したものになって、アクションプランにしっかりとつながっていくような、そういう形で進めていただければというふうに思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（保坂 悟君）

以上で、和泉議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を3時35分といたします。

〈午後3時22分 休憩〉

〈午後3時35分 開議〉